

# UUIDの統一（書き戻し）に向けた調査・実証研究

株式会社文溪堂 DX推進本部 デジタル企画部

## 1. 実証環境について

---

学校数：小学校11校 中学校5校

自治体内児童生徒数：小学校5,300人 中学校2,633人 (令和5年度)

実証対象児童生徒数：小学校1,554人 中学校1,728人 (作業日時点)

学習eポータル：まなびポケット

弊社校務支援システム利用開始：2019年4月

その他：市内人口に占める外国人の割合は8.9% (2022年統計)

## 2. 名寄せツールについて

- ◆ インストールが不要でネットに繋がっていない環境でも利用できるという観点で、Excelでツールを開発する方針とした。
- ◆ 複数の学習eポータルに対応できるような汎用性を追求するとユーザー操作が増えてしまい、ヒューマンエラー等につながるため、学習eポータルごとにツールを開発する方針とした。
- ◆ 上記に伴い、名簿ファイル読み込み時にヘッダーを指定して、必要なデータを取得している。
- ◆ 下記から任意の項目をユーザーが組み合わせ、結合したデータでもって突合を行う。

**共通項目・氏名(ふりがな)・学年・組・番号**

## 2. 名寄せツールについて

- ◆ 結合時の関数について、「TEXTJOIN」はExcel 2016 以前のバージョンでは利用することができないため「&」を使用し結合をしている。
- ◆ 突合の際にエラーチェックが必要となるため、作業単位は自治体や校種一括ではなく、学校ごとを想定し開発をした(最大1,500名の同時突合が可能)。
- ◆ 弊社校務支援システムではオリジナル外字を使用しているため、氏名についてはふりがなで突合を行っている。
- ◆ 氏名（ふりがな）については校務側名簿データでは拗音・促音部分が直音表記になっている児童生徒が複数いたため、両名簿データの拗音・促音は直音に変換して突合する。

例：にった しゅんすけ → にった しゅんすけ

## 2. 名寄せツールについて

---

- ◆ 突合後は弊社校務支援ソフトにそのまま取込が可能なファイルを出力する。

### 3. 名寄せ作業実績(小学校)

A小学校(対象児童：1013人 ※校務側データ数)

連携対象項目	エラー	エラー原因
共通項目のみ	無	
氏名(ふりがな)・学年・ 組・番号	有	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習eポータルが通称氏名、校務側が正式名になっている</li><li>・ 外国籍児童のミドルネームの有無</li></ul>

B小学校(対象児童：541人 ※校務側データ数)

連携対象項目	エラー	エラー原因
共通項目のみ	無	
氏名(ふりがな)・学年・ 組・番号	有	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 出席番号の登録ずれ</li><li>・ 支援ひまわり組の表記が違っている</li><li>・ 学校の独自運用で学習eポータルの支援級児童が全員3年生になっている</li></ul>

### 3. 名寄せ作業実績(中学校)

A中学校(対象生徒：956人 ※校務側データ数)

連携対象項目	エラー	エラー原因
共通項目のみ	無	
氏名(ふりがな)・学年・ 組・番号	有	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習eポータルが通称氏名、校務側が正式氏名になっている</li><li>・ 外国籍生徒のミドルネームの有無</li></ul>

B中学校(対象生徒：772人 ※校務側データ数)

連携対象項目	エラー	エラー原因
共通項目のみ	無	
氏名(ふりがな)・学年・ 組・番号	有	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習eポータルが通称氏名、校務側が正式氏名になっている</li><li>・ 学校側の独自運用で学習eポータルの交流級を1011組で登録している</li></ul>

### 3. 名寄せ作業実績

- ◆ 共通項目のみで突合した場合は、10秒程度でチェックが完了したが、氏名(ふりがな)・学年・組・番号で突合した際は、エラーの数が多くチェックが完了するまでに最大で2分弱かかった。
- ◆ 氏名(ふりがな)・学年・組・番号で突合した際に、エラーが多く出てしまい、委員会と弊社だけでは元データの修正ができないと考えたため、共通項目のみで突合をし、校務支援システムにUUIDの書き戻しを行った。
- ◆ 名簿データが揃っている状態であれば、共通項目での突合から校務支援システムへのUUID書き戻しは1校あたり5分かからない程度で実施できた。
- ◆ 残りの学校については3月以降に作業を予定している。



## 4. ツールに関する課題

- ◆ 学習eポータルごとにヘッダー項目や並びが異なるため、学習eポータルごとにツールの開発が必要となる。
- ◆ 1,000人程の突合でエラーが多くなると、チェックに時間がかかっている（特にエラーデータ一覧作成処理 / A小学校では2分弱）

汎用性を高めることはユーザーの操作項目が増えることになりユーザーの負担・ヒューマンエラーに繋がる一方、ユーザーに寄り添い自動処理を増やすとツールの速度遅延に繋がるため、バランスを考える必要がある。もしくは、Excelのマクロではなく、Pythonなどのスクリプトで処理することで、より多くのデータをより早く突合が可能であると考ええる。

また、各社学習eポータルのヘッダー項目を統一ができれば、ユーザーの操作を増やすことなく汎用化できるだけでなく、ツールのメンテナンスも簡素化できると考える。

## 5. 突合用データに関する課題

- ◆ 学習eポータルの名簿データは公簿である指導要録等に反映されないこともあり、正しく登録されていない児童生徒が存在した。また、学習eポータルへの名簿データの登録のルールは統一されておらず、学校ごとにデータの持ち方が異なっていた。

### 上記に関する具体例

学年	支援児童生徒について、本来の学年とは切り離し、特定の学年に寄せて登録していた。
組	校務では「組」をつけていないが、「組」も付与して登録していた。 (例：校務では「1」だが学習eポータルでは「1組」)
	支援児童生徒について、交流学級で登録している学校と、支援学級で登録している学校があった。
番号	要録整理番号で登録している学校と出席番号で登録している学校があった。
	交流学級の番号で登録している学校と支援学級の番号で登録している学校があった。
氏名 (ふりがな)	校務側は本名だが、通称名を使用していた。
	ミドルネームを省略して登録していた(外国籍の児童生徒)。

## 5. 突合用データに関する課題

---

共通項目以外の項目で突合を行う場合、校務側もしくは学習eポータル側どちらかのデータの修正が必要になる場面が多いと考えられる。

学習eポータルでも名簿登録における推奨ルールのようなものがあれば、突合時のエラーを減らすことができると考えられる。